



人公に対する繰り返しの働きかけを書き込む。左には吹き出しを貼り、繰り返しの働きかけで少しずつ変化する主人公の行動と気持ちが書けるようにする。左右共に3回開くと最後の場面が登場するようになっている。ぱたぱたと左右交互にページをめくりながら、何が繰り返されているのか、少しずつ変わるところは何なのか、視覚的にも容易に捉えることができる。

「きつねのおきゃくさま」版の「ぱたぱたブック」は、3匹の動物たちとのやり取りで、きつねが少しずつ変化していくことに気付かせ、書き込ませていきたい。子供たちは、一人読みや、話し合い活動などを通して、繰り返しの中の同じところや少し違うところに着目してきている。「ぱたぱたブック」を作りながら、もう一度自分で本文に立ち返り、繰り返される場面の中で、きつねの心情がどのように変容しているか考えながら、場面の様子や登場人物の心情などを想像して読むことになるだろう。繰り返しの中での少し違うところを踏まえて気持ちを想像させ、「ぱたぱたブック」の吹き出しの中に行動と気持ちを書いていくようにしたい。このような活動を通して、学習指導要領「C 読むこと」の指導事項ウ（文学的な文章の解釈）「場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に、想像を広げながら読むこと。」をねらうことができると考えた。

繰り返しのあるお話は、繰り返しの中の少しずつ違うところに面白さがある、ということ。「きつねのおきゃくさま」を通して学び、それを生かして自分の考えたお話で「ぱたぱたブック」を作らせる。繰り返すところ、少しずつ変わっていくところを意識させながら、オリジナル版「ぱたぱたブック」を作らせていきたい。

また、「ぱたぱたブック」の交流を通して、自分の考えを発表したり、友達の考えを聞いたりして、友達の思いや考えを認め合い、読みの世界を広げていくことができると考えた。従って、学習指導要領「C 読むこと」の指導事項オ（自分の考えの形成及び交流）「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。」を実現できると考える。よって、本単元にふさわしい言語活動であると考えた。

## （2）本単元でつけさせたい力

本単元全体を通して、「きつねのおきゃくさま」のような繰り返し構造を持つお話に親しませていきたい。並行読書では、たくさんの繰り返しのお話に触れさせる。教師が読み聞かせを行ったり、読んだ本やおすすめの本にシールを貼ったり、おすすめの本を紹介するカードを掲示したりするなどして、物語を読むことに意欲を持たせたい。「きつねのおきゃくさま」版「ぱたぱたブック」やオリジナル版「ぱたぱたブック」の作成で、繰り返しのお話を読んだり、自分で考えて書いたりする活動を通して、繰り返しのあるお話の面白さに気付かせていきたい。

「きつねのおきゃくさま」の学習では、「パノラマノート」で一人読みしたことを交流し、何が繰り返されているのか、少しずつ違うところは何かを押さえていく。少しずつ変わるきつねの心情が目で見えるように、「ガブリメーター」も活用する。

拡大本文には、教科書に載っている挿絵だけではなく、絵本からコピーした挿絵も増やして掲示しておく。挿絵からも、動物たちが太っていく様子や、きつねの表情の変化、家の中の様子の変化等を見つけて想像を膨らませ、読み取りに生かしていきたい。

このように、「ぱたぱたブック」、パノラマノート、ガブリメーター、挿絵など、いろいろな手立てで読みを深める力をつけさせたいと考える。

(3) (1) (2) の基盤となる日常的な取り組み

○読書活動

本学級の読書傾向を見ると、お話に自ら親しみ、物語の世界を楽しんでいる子供が少ないと考えた。そこで、図書館指導員の先生の協力を仰ぎ、きつねの出てくる本、繰り返しのある本を用意することにした。単元に入る前には、朝の読書タイムや図書時間の読み聞かせなどを使って、きつねが出てくる物語の読み聞かせを行う。特に、きつねが悪者になっていたり、いたづらをしたりする昔話や物語を読んでいく。この読書体験と、「きつねのおきゃくさま」を結び付けたり、比べたりすることは、「きつねのおきゃくさま」に出てくる動物たちが、きつねを敬遠していたことや、「優しいきつね」と呼ばれることへの理解を深めることができると思う。

単元に入ってから、並行読書を行う。きつねの出てくる物語だけでなく、繰り返しのある物語を用意し、読み聞かせをしたり、教室の後ろに特設コーナーを設置したりして、物語に親しむ時間を増やす。物語を読んだら、掲示物にシールを貼ったり、おすすめの本をお知らせしたりする活動を取り入れて、読むことに意欲を持たせていく。

○音読

本学級では、音読の宿題を毎日行うようにしている。教材文を何度も音読することで、パターンを自然と覚え、繰り返される表現や、繰り返しの文章構成に興味を持つことにつながるだろうと考える。そのことは、オリジナル版「ばたばたブック」を書く活動とも自然とつながっていくだろうと考える。

5 指導計画

		学習活動	指導や支援の手立て (◇評価)	
一 次	1	○学習の見通しを持つ。 ・「きつねのおきゃくさま」の読み聞かせを聞き、登場人物や、印象に残ったところについて話し合う。 ・「ばたばたブック」の見本を見る。 ・自分で考えた「ばたばたブック」を作るための学習計画を立て、ノートに書く。	・お話が繰り返されていることを確認し、これから繰り返しのあるお話を学んでいくことを知らせる。少しずつ違うところがあることにも気づかせる。 ・今まで学んだ繰り返しのあるお話を想起させ、教師が「大きなかぶ」で作成した「ばたばたブック」を紹介する。 ・自分で「ばたばたブック」を作るという学習のゴールと、そのために「きつねのおきゃくさま」版「ばたばたブック」を作るという学習の流れを伝える。 ・学習計画と各時間の振り返りを書き込める欄のある表をノートに作成し、学習の見通しが持ちやすいようにさせる。 ◇学習の見通しを持とうとしている。	並 行 読 書
	2	・「きつねのおきゃくさま」を一人読みする。	・好きなところに赤線、不思議だな、もっと考えたいなと思うところに青線を引いたり、想像したことを書き込んだりさせる。この時、気持ちを考えるには、登場人物の行動や会話に着目すればよいことを助言する。	

一 次			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前から順番に一人読みするのではなく、自分の心に残ったところから記入させる。</li> <li>・自分の経験を思い出し、本文と結び付けながら気持ちを想像させる。</li> </ul> <p>◇登場人物の行動や会話を中心に、想像を広げながら読んでいる。</p>	並 行 読 書
	3 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きなところや不思議だなと思うところを全体で交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一人読みで線を引いた中から、好きなところや不思議だなと思うところを選び、好きな理由、不思議に思う理由を色別の付箋（好きなところ→ピンク、不思議なところ→水色）に書かせる。書いた付箋は教室に掲示された拡大本文に貼らせる。</li> <li>・貼られた付箋を基に、話し合いを進める。その時、繰り返しの中での「同じところ」や「少し違うところ」を押さえながら話し合わせる。</li> <li>・友達の意見をよく聞き、気付かなかったことは、自分のパノラマノートに書き込んでいくよう、助言する。</li> <li>・きつねの気持ちが移り変わっていることに気付いたらハートの形のガブリメーターを提示する。食べたい気持ち（赤）と、優しい気持ち（青）で塗り分けをして、パノラマノートに貼らせ、気持ちの変化を捉えやすいようにする。「えさ」から「おきゃくさ」になったのはいつなのか、疑問を投げかけておく。</li> <li>・ガブリメーターの色分けの量や、きつねの気持ち確定せず、考える余地を残しておくようにする。</li> </ul> <p>◇繰り返しのあるお話の面白さに気づき、楽しんで読書しようとしている。</p> <p>◇登場人物の様子や心情を、想像を広げながら読んでいる。</p>	
二 次	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「きつねのおきゃくさま」版「ぱたぱたブック」を作成する。</li> <li>・「ぱたぱたブック」の仕組みを知って、作成の見通しを持ち、本の土台を作成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物や、何回繰り返しがあのかを再確認し、「ぱたぱたブック」の画用紙の枚数を考えたり、どこに何を書くのか話し合ったりしながら、作成の見通しを持たせる。</li> <li>・きつねの気持ちの変化に働きかけた、動物たちの会話を確認し、一緒に「ぱたぱたブック」の右側に書き込ませる。</li> </ul>	

二 次 本 時	6 7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【ひよこにあった場面】【あひるに会った場面】【うさぎに会った場面】の吹き出しを考えて書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹き出しには、きつねの行動（本文）と気持ちを書かせる。本文の書き抜きだけになっている児童や、根拠となる行動が抜けていて気持ちだけ書いている児童は、机間指導で助言をする。その際、パノラマノートに書き込んでいることや、拡大本文の掲示を振り返らせ、どこからどんな気持ちがあったのかを考えるように助言する。</li> <li>・絵や色塗りは、早く終わった児童のみとし、そのための時間は取らないようにする。絵に時間がかかりそうな児童には、目などのパーツを描くだけの動物の型を用意しておく。</li> </ul> <p>◇繰り返しのあるお話の面白さに気づき、楽しんで読書しようとしている。</p> <p>◇登場人物の様子や心情を、想像を広げながら読んでいる。</p>	並 行 読 書
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【ひよこに会った場面】【あひるに会った場面】【うさぎに会った場面】の吹き出しに書いた、少しずつ変わっていくところを交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話し合いがしやすいように、自分でよく考えたと思う一文に赤線を引かせておく。発表するときは、線を引いたところと、その一文を考えた根拠も本文に戻って示すよう伝え合わせる。</li> <li>・友達の発表を聞き、感想を伝え合うようにする。良いところにはシールを貼ってあげるように伝える。</li> <li>・シールを貼る場所が決まらない児童には、同じだなと思うところや、気付かなかったところにシールを貼れば良いことを助言する。</li> <li>・交流後の全体の話し合いでは、自分の気付かなかった友達の考えを中心に発表させ、読みが広がるようにする。</li> <li>・振り返りには、共感した友達の考えや自分の考えが変わった友達の発表などを書くの良いことを伝える。</li> </ul> <p>◇きつねの気持ちを想像しながら読んでいる。</p> <p>◇自分の考えや思いを伝え合い、友達の考えを取り入れながら、自分の考えを広げている。</p>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【最後の場面】の吹き出しを書き、交流をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の吹き出しは、おおかみと戦った場面か、はずかしそうに笑って死んだ場面かを自分で選ばせる。これまでに書いたきつねの気持ちや、一次で確認したことなどを踏まえながら書くように助言する。</li> <li>・交流では、きつねの気持ちがどう変化したのか、違いを考えながら聞くように伝える。</li> <li>・全体の話し合いの後、ガブリメーターの色分けをも</li> </ul>	

			<p>う一度確認する。「えさ」から「おきやくさま」に変わったのはいつなのか、なぜおおかみと戦ったのか、なぜ「はずかしそうにわらってしんだ」のかなど、きつねの気持ちをもう一度全体で確認する。</p> <p>◇自分の経験と結びつけながら、想像を広げて読んでいる。</p> <p>◇場面の様子やきつねの行動の変化を捉えて、その様子や心情を想像しながら読んでいる。</p>	
三 次	10	<p>○オリジナル版「ばたばたブック」を作る。</p> <p>・物語の設定を決める。</p>	<p>・どんな主人公が、どんな繰り返しを通して、どのように変わるのかを考え、ノートにメモをさせる。</p> <p>・「きつねのおきやくさま」を振り返り、「きつねのおきやくさま」だったら、どんなメモになるかを全体で考え、確認していく。</p> <p>・どうしても思いつかない児童は、教科書についているお話の設定のヒントや、教師の見本を参考にして書くように助言する。</p> <p>◇繰り返しのあるお話を考え、楽しんで書こうとしている。</p>	並 行 読 書
	11 12 13	<p>・自分で繰り返しのあるお話を作る。</p>	<p>・考えた繰り返しのあるお話を「ばたばたブック」に書き込ませる。「きつねのおきやくさま」版「ばたばたブック」を作った時のように、吹き出しには、主人公の行動と気持ちを書くように伝える。</p> <p>◇繰り返しのあるお話を考え、「ばたばたブック」を楽しんで作ろうとしている。</p>	
	14	<p>・友達とオリジナル版「ばたばたブック」を交流する。</p>	<p>・完成した「ばたばたブック」をグループ内で紹介し、感想を伝え合わせる。気に入ったところや、面白かったところにはシールを貼ってあげるように伝える。</p> <p>◇書いた「ばたばたブック」を読み合い、友達の良いところを見つけて感想を伝えようとしている。</p>	

## 7 本時の目標と展開

### (1) 本時の目標

○「少し変わっていくところ」に着目し、繰り返しのあるお話の面白さに気付きながら読むことができる。(読むこと ウ)

○想像したきつねの気持ちを伝え合い、自分の考えを広げることができる。(読むこと オ)

(2) 本時の学習活動

前時までに考えたきつねのおきやくさま版「ぱたぱたブック」を持ち寄り、三つの場面を交流する活動を行う。まずはグループで、吹き出し（想像したきつねの気持ちと根拠となった本文）を発表し合い、感想を伝え合う。全体の話し合いでは、主に三回の繰り返し場面の中の、少し違うところから読み取れるきつねの気持ちの変容を取り上げ話し合う。

(3) 本時の展開（ 8 / 14 ）

主な学習内容と活動	支援や指導の手立て（◇は評価）
<p>1 学習のめあてをつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡大本文で着目した箇所や、そこに貼られたガブリメーターを見ながら、これまでのきつねの気持ちの変化を全体で確認する。</li> </ul>
<p>繰り返しの場面の少し変わっていくきつねの気持ちを交流しよう。</p>	
<p>2 グループ内で「ぱたぱたブック」を交流する。</p> <p>〈予想される児童の考え〉</p> <p>【ひよこに出会う場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生まれてはじめて「やさしい」なんて言われてびっくりしちゃったよ。</li> <li>・うれしすぎて、切りかぶにつまずいてころびそうになったよ。</li> <li>●ひよこはまるまる太ってきたぞ。いつたべようかな。</li> </ul> <p>【あひるに出会う場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「親切」という言ばが気に入って、「親切なきつね」って五回もつぶやいてしまったよ。</li> <li>・「親切なお兄ちゃん」の話を聞いていたら、とってもうれしくてぼうっとなっちゃうよ。</li> <li>●あひるもまるまる太ってきたけど、食べるかちょっとまようなあ。</li> </ul> <p>【うさぎに出会う場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「かみさまみたい」なんて言われたことないから、ものすごくうれしくて気ぜつしちやいそうになったよ。</li> <li>●うさぎもまるまる太ってきたけど、もう友だちみたいになかよくなった3びきを食べちゃうのはかわいそうかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流の仕方の書かれた模造紙を貼り、内容を確認させる。</li> </ul> <p style="text-align: center;">—交流の仕方—</p> <p style="text-align: center;">〈話す人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ぱたぱたブック」を見せながら、三つの場面を発表する。</li> <li>・よく書けたと思うところ（赤線を引いたところ）を言う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〈聞く人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の話最後まで聞く。</li> <li>・良いと思ったところにシールを貼ってあげる。</li> <li>・シールを貼ったところに関して感想を必ず言う。</li> <li>・質問があれば、してもよい。</li> </ul> <p style="text-align: center;">〈話した人〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お礼や質問の回答をする。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前時に、自分が上手に書けたと思う気持ちには赤線を引いているので、そう考えた理由も合わせて伝えるように助言する。</li> <li>・友達の発表を聞いたら、必ず一人ずつ感想を述べさせる。良いなあと思うところが伝わりやすいように、友達の吹き出しの一文に、シールを貼らせる。</li> <li>・●のようにこれまでのきつねの様子や気持ちとのつながりや変化を考えている児童は、積極的に褒めるようにする。</li> </ul>

<p>3 クラス全体で、きつねの気持ちを交流し、読み深める。</p> <p>4 本時の学習の振り返りを書き、次時への目標を持つ。</p>	<p>◇読み取ったことの話し合いの中で、繰り返しのお話の中の「少し違うところ」に着目している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・きつねの行動や会話から想像を豊かに広げて書いている児童や、「少し違うところ」を意識して書いている児童に発表させ、全体で読みが深まるようにする。その時、本文の叙述やガブリメーターをもう一度確認し、物語全体を振り返りながら読みの世界を広げられるようにする。</li> <li>・繰り返す場面の中の、少しずつ変わっていくところが面白いことなど、繰り返しのある物語の面白さを伝えるようにする。</li> <li>・だれのどんな意見で自分の読みの世界が広がったのかを振り返ることにより、友達との交流の良さに気付くことができるようにする。</li> <li>・次時は最後の場面の「ぱたぱたブック」を作成することを伝える。</li> </ul> <p>◇想像したきつねの気持ちを伝え合い、自分の読みの世界を広げている。</p>
--	--